

平成26年8月30日（土）

# 日本緑化工学会

## 平成26年通常総会

帯広畜産大学 講義棟1階 大講義室  
(帯広市稲田町西2線11番地)

### － 次 第 －

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 議 案
  - (1) 第一号議案 平成25年度事業報告
  - (2) 第二号議案 平成25年度決算報告
  - (3) 第三号議案 平成26年度事業計画案
  - (4) 第四号議案 平成26年度収支予算案
  - (5) 第五号議案 名誉会員の推挙
5. その他
6. 閉 会

## 第一号議案

日本緑化工学会 平成 25 年度 事業報告

平成 26 (2014) 年 8 月 30 日  
(平成 25 年 8 月 1 日～平成 26 年 7 月 31 日)

### 1. 第 44 回日本緑化工学会大会

開催年月日：平成 25 (2013) 年 9 月 27 日 (金) ～9 月 29 日 (日)  
開催地：鳥取大学 鳥取キャンパス (鳥取市湖山町南 4-101)  
発表題数：75 題 (論文 19、技術報告 27、研究交流発表 29)  
資材工法展示 3 社 (ICT インターナショナル、紅大貿易株式会社、有限会社竹本園)  
大会参加者 164 名 (会員 121 名、学生 24 名、一般 19 名) 懇親会参加者 78 名

### 2. 研究会等

#### (1) 斜面緑化研究部会 第 44 回大会にて研究集会を開催

①開催年月日：平成 25 年 9 月 27 日(金) 15:30～17:10

開催地：鳥取大学共通教育棟 共通教育棟 A32 (鳥取市湖山町)

テーマ：「斜面緑化研究部会がめざす法面緑化の新たなルール作り (その 4)  
ー法面の自然回復緑化における評価方法の提案ー」

参加者数：100 名

#### (2) 生態・環境緑化研究部会 第 44 回大会にて研究集会を開催

①開催年月日：平成 25 年 9 月 28 日(金) 14:10～15:50

開催地：鳥取大学共通教育棟 共通教育棟 A32 (鳥取市湖山町)

テーマ：「生態系および遺伝子の多様性に配慮した緑化の拡大に向けて ー「地域性種苗」を、「なぜ使いたいのか、使うべきなのか？」～社会的要請の高まりを考えるー」

参加者数：100 名

#### (3) 第 44 回大会にて研究集会を開催

企画代表者：小林達明

開催年月日：平成 25 年 9 月 28 日 (土) 16:00～17:40

開催地：鳥取大学共通教育棟 共通教育棟 A32 (鳥取市湖山町)

テーマ：「原子力災害被災地の生態再生 (2) 森林の除染を考える」

#### (4) 乾燥地緑化研究部会 乾燥地緑化研究部会第 19 回シンポジウムを開催

開催年月日：平成 26 年 3 月 21 日 (金) 13:00～

開催地：東京農業大学 (東京都世田谷区)

テーマ：「乾燥地の生態系とその課題 3 アラビア半島周辺の乾燥地マングローブ林」

参加者数：36 名 後援：日本沙漠学会

#### (5) 緑・健康研究部会 ワークショップを実施

開催年月日：平成 26 年 4 月 2 日 (水)

開催地：京都府立大学および周辺 (京都府京都市)

テーマ：「緑の癒しについて考える」

参加者数：35 名

#### (6) 生物多様性緑化研究部会 シンポジウムの後援 (2 件)

「明治大学と都市のエコロジカルネットワーク」(明治大学主催)

「オオタカをどうするか」(日本造園学会生態工学研究委員会・日本生態学会・明治大学専任教授連合会主催)

今期より以下の重点分野について以下のメンバーを中心として活動を開始することとした。

<防災緑化研究部会> 部会長：阿部和時理事、幹事：小川泰浩理事、執印康裕理事

<沿岸自然保全再生研究部会> 吉崎真司理事

<地域性種苗普及促進 WG> 生態・環境緑化研究部会にて活動

<東京オリンピック関連 WG> 都市緑化技術研究部会を中心に活動予定

### 3. シンポジウム

- (1) 第44回大会 公開シンポジウム (全国都市緑化とっとりフェアと共同開催にて実施)  
開催年月日：平成25年9月29日(日)  
開催地：鳥取大学共通教育棟A20講義室 (鳥取市湖山町)  
テーマ：「ナチュラルガーデンと生物多様性緑化の実践」  
演題：4

### 4. 現地見学会

- (1) 第44回大会 現地見学会  
開催年月日：平成25年9月29日(日)  
見学地：第30回全国都市緑化とっとりフェア会場 (鳥取市湖山池公園)  
参加者数：24名
- (2) 第44回大会 ミニエクスカーション  
見学地：乾燥地研究センターと鳥取砂丘  
開催年月日：平成25年9月28日(土)  
参加者数：33名
- (3) 平成26年 現地見学会  
開催年月日：平成26年7月5日(土)  
テーマ：「地域生態系に配慮した樹林整備の現状とこれから」  
見学地：名神高速道路草津JCT付近・森のお引越し事業、新名神高速道路甲南トンネル坑口付近・隼人川自然復元事業、高速道路総合技術研究所緑化技術センター  
参加者数：33名

### 5. 学会誌の発行

- (1) 第39巻1号：平成25年8月31日発行 222ページ (第44回大会特集号)
- (2) 第39巻2号：平成25年11月30日発行 116ページ
- (3) 第39巻3号：平成26年2月28日発行 114ページ
- (4) 第39巻4号：平成26年5月31日発行 132ページ

### 6. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering の発行

- (1) Vol. 10 No. 1：平成26年1月発行 262ページ (27編)
  - (2) Vol. 10 No. 2：平成26年7月発行 108ページ (10編)
- 2013年のImpact Factorの係数は1.180  
※2014年発行の10巻は10周年記念号として刊行した

### 7. 平成25年度日本緑化工学会賞の授与

- 論文賞：那須 守 氏  
「都市緑地の保有する健康関連QOLに関する研究」
- 論文賞：今西 純一 氏  
「リモートセンシングによる樹木の活力度評価に関する研究」
- 研究奨励賞：寺南 智弘 氏  
「乾燥地に生育する数種樹木の樹形、成長に及ぼす砂の移動の影響に関する研究」
- 功績賞：近藤 三雄 氏
- 功績賞：興水 肇 氏

### 8. CPD

- (1) 緑化・環境CPD協議会 会員数 910名 (うち当学会員712名)
- (2) 講習会などの認定と、CPD参加証明書の発行  
今期のCPD認定行事によるCPDポイントの認定は、合計53.5Pとなった。

緑化工学会が、シンポジウム 大会 研究集会などを実施し、17.5P 発行した。

国土環境緑化協会連合会が講習会を 8 回実施し、25.5P 発行した。

NPO 法人日本緑化工協会が講習会を 1 回実施し、9.0P 発行した。

その他、造園学会のシンポジウムを認定し 1.5P 発行した。

各会場で、CPD 参加証明書の発行を行った。

(3) CPD プログラム認定委員会

プログラム認定を行った。

(4) その他

ホームページを適宜更新し、認定行事の広報を行った。

9. 学会広報事業

(1) HP 運営ワーキンググループによるホームページの運営

(2) 新たに公式ブログを開設した（日本財団の運営する canpan サイト内）。

<http://blog.canpan.info/jsrt/>

10. 環境省への意見書の提出

作成中の「外来種被害防止行動計画（仮称）」「侵略的外来種リスト（仮称）」について環境省野生生物課長より意見を求められたため、会員へ募集した意見をとりまとめて 11 月 15 日付で柴田会長より環境省自然環境局野生生物課長宛に提出した。

11. その他事業

(1) 日本緑化工協会主催「緑化工技術講習会」の後援

開催年月日：平成 26 年 1 月 27・28 日

開催地：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

備考：講師派遣 3 名

(2) 応用生態工学会大阪大会（平成 25 年 9 月 18~21 日）大会の後援

(3) ICLEE に関連する打ち合わせを韓国にて実施、JSRT からは柴田、中島（6/15）

12. 会員数（平成 26 年 7 月末現在、カッコ内は前年末、(( ))内は前々年末）

(1) 名誉会員： 4 名 ←（ 4 名） ←（（ 4 名））

(2) 正会員： 637 名 ←（640 名） ←（（687 名））

(3) 学生会員： 96 名 ←（108 名） ←（（119 名））

(4) 賛助会員： 55 団体 ←（61 団体） ←（（67 団体））

(5) 購読会員： 39 団体 ←（39 団体） ←（（39 団体））

※ 学生会員に対する会費の優遇措置の適用を理事会で決定し、今年度より実施

第二号議案

平成25(2013)年度 収支報告書

(平成25年 8月 1日 ~ 平成26年 7月31日)

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収入の部	正会員費	5,160,000	3,776,000	-1,384,000	73.18	正会員 637名 / 今年度入金 472名 (@8,000)
	正会員費・未収金		488,800	488,800		過年度分入金 40名
	賛助会員費	2,310,000	1,925,000	-385,000	83.33	賛助会員 55団体 / 今年度入金 55団体 (@35,000)
	購読会員費	328,000	296,000	-32,000	90.24	購読会員 38団体 / 今年度入金 37団体 (@8,000)
	学生会員費	432,000	160,000	-272,000	37.04	学生会員 96名 / 今年度入金 40名 (@4,000)
	学生会員費・未収金		41,000	41,000		過年度分入金 10名
	入会登録料	30,800	35,000	4,200	113.64	50名 (@700)
	投稿料	400,000	837,000	437,000	209.25	通常号(論文・短報)、大会号(論文技術報告)
	広告料	1,000,000	1,405,000	405,000	140.50	Vol.39-1 ~ Vol.39-4 分
	雑収入	1,000,000	1,390,992	390,992	139.10	別刷・BN販売収入、著作権使用料、J-Stage有料閲覧費、第44回鳥取大会補助費返金、利息等
	小 計	10,660,800	10,354,792	-306,008	97.13	
	繰越金	6,495,743	6,495,743			
	合 計	17,156,543	16,850,535	-306,008	98.22	
支出の部	会議費	50,000	81,905	31,905	163.81	理事会・評議会会議室借上費 他
	旅費交通費	600,000	517,900	-82,100	86.32	理事会交通費
	事務人件費	400,000	259,503	-140,497	64.88	本部経費、総務部会事務費、HP・ML管理費、サーバル料
	通信費	800,000	820,703	20,703	102.59	会誌・会費請求書発送費、電話・FAX料
	事務用品費	100,000	131,145	31,145	131.15	総務部会事務用品費、コピーリース料
	学会誌刊行費	5,900,000	6,882,428	982,428	116.65	学会誌編集・製作委託費、J-Stage登録費用、英文誌出版分担金
	大会補助費	500,000	561,924	61,924	112.38	大会開催補助費
	シンポジウム・見学会補助費	200,000	217,008	17,008	108.50	
	研究部会補助費	300,000	106,508	-193,492	35.50	
	委員会等経費	300,000	246,160	-53,840	82.05	編集委員会、大会誌編集委員会
	事務委託費	1,800,000	1,842,914	42,914	102.38	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務、英文誌刊行事務委託費等)
	CPD等経費	550,000	300,000	-250,000	54.55	管理経費
	諸会費	150,000	140,000	-10,000	93.33	JABEE、JAFEE
	震災特別対策費	300,000	0	-300,000	0.00	震災調査費用
	雑費	30,000	104,660	74,660	348.87	振込手数料 他
予備費	5,176,543	0	-5,176,543	0.00	慶弔費 他	
合 計	17,156,543	12,212,758	-4,943,785	71.18		
次期繰越金			4,637,777			

平成25年度 日本緑化工学会の収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

平成26年 8月22日

日本緑化工学会 経理担当理事 田中賢治

平成25(2013)年度 日本緑化工学会(英文誌)

【収支報告書】 平成25年 8月 1日～ 平成26年7月31日

	費 目	予算額	決算額	差額	摘要	
収 入	正会員費	580,650	492,450	-88,200	購読者 80名/今年度入金 65名	
	学生会員費	37,800	12,600	-25,200	購読者 6名/今年度入金 3名	
	出版分担金	150,000	293,800	143,800		
	小 計	768,450	798,850	30,400		
	繰 越 金	61,989	61,989			
	合 計	830,439	860,839			
支 出	購読費	LEE誌	640,750	607,950	-32,800	購読料(9巻2号、10巻1号)
	諸会費	2014年	150,000	150,000	0	ICLEE運営事務負担金
	合 計		790,750	757,950	-32,800	

次期繰越金

102,889

平成25年度 日本緑化工学会(英文誌)の収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

平成26年 8月22日

日本緑化工学会経理担当理事 田中賢治

平成25(2013)年度 貸借対照表 (和文誌・英文誌)

平成26年 7月 31日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	60,639	前受け会費	329,100
預 け 金	5,453,639	未払い費用	513,862
未 収 金	69,350	次期繰越金	4,740,666
合 計	5,583,628	合 計	5,583,628

－ 財 産 目 録 －

資産の部

科 目	摘 要	金 額
現 金	事務局	60,639
預 け 金	みずほ銀行 本郷支店	3,784,627
	本郷郵便局	1,669,012
	小 計	5,453,639
未 収 金	BN販売	6,350
	別刷り代	9,000
	投稿料、会費	54,000
	小 計	69,350
合 計		5,583,628

負債の部

科 目	摘 要	金 額
前受け会費	正会員	201,000
	学生会員	76,000
	購読会員	8,000
	正会員(英文誌)	44,100
	小 計	329,100
未払費用	事務委託費	469,422
	大会特集号編集委員会 旅費	44,440
	小 計	513,862
合 計		842,962

－ 会 計 監 査 報 告 －

平成25年度(平成25年 8月 1日 ~ 平成26年 7月31日) 収支決算報告書および財産目録に基づき、帳簿類を監査したところ、適正であることを認めます。

平成26年 8月22日

平成25年度 日本緑化工学会

監事

中野 裕司

同上

監事

藤原 宣夫

平成 26 (2014) 年 8 月 30 日  
(平成 26 年 8 月 1 日～平成 27 年 7 月 31 日)

1. 第 45 回日本緑化工学会大会

開催年月日：平成 26 年 8 月 30 日～9 月 1 日  
開催地：帯広畜産大学 (帯広市稲田町西 2 線 11 番地)  
発表題数：98 題 (論文 25、技術報告 38、研究交流発表 35)  
※ 46 回大会は日本大学 (神奈川県藤沢市) で平成 27 年 9 月に開催

2. 研究会 研究部会、ワーキンググループ等で、1～3 回開催予定

- ①斜面緑化研究部会                      ②都市緑化技術研究部会                      ③生態・環境緑化研究部会
- ④乾燥地緑化研究部会                      ⑤積雪寒冷地緑化研究部会                      ⑥生物多様性緑化研究部会
- ⑦緑・健康研究部会

重点テーマのワーキンググループ もしくは 新設部会

- 防災緑化研究部会    第 45 回大会で第 1 回の研究集会を予定
- 地域性種苗普及促進ワーキンググループ    生態・環境緑化研究部会にて活動
- 東京オリンピック関連ワーキンググループ    都市緑化技術研究部会を中心に活動予定

(1) 斜面緑化研究部会 / 積雪寒冷地緑化研究部会

第 45 回大会にて公開シンポジウムを企画    開催年月日：平成 26 年 8 月 30 日

(2) 防災緑化研究部会 (新設)    第 45 回大会にて研究集会を企画

開催年月日：平成 26 年 8 月 31 日 (日)    15:00～16:30  
開催地：帯広畜産大学 講義棟    25 番講義室 (北海道帯広市)  
テーマ：「森林はどのように斜面を安定化するか!？」

(3) 生態・環境緑化研究部会

① 第 45 回大会にて研究集会を企画

開催年月日：平成 26 年 8 月 31 日 (日)    16:30～18:00  
開催地：帯広畜産大学 講義棟    3 番講義室 (北海道帯広市)  
テーマ：「地域性種苗利用の最前線 ～使った・困った事例紹介ワークショップ」

② 情報・文献等の整理

地域性種苗に関して海外を含めた動向や問題、使用されている用語の整理を行い、必要だと判断された場合は、用語、定義の整理・提案などを改めて行う

(4) 都市緑化技術研究部会                      シンポジウムを企画予定

開催時期：平成 26 年 11 月上旬  
開催地：住宅金融公庫「すまい・るホール」(予定)    (東京都文京区)  
テーマ：「緑を活用した豪雨対策と冷える街づくりのための都市緑化技術」

(5) 緑・健康研究部会

「緑と人の健康」に関するワークショップを開催予定。時期および開催場所は未定

(6) 乾燥地緑化研究部会                      第 20 回シンポジウムを企画

テーマ：「乾燥地の生態系とその課題」4 (詳細は企画中)  
開催年月：平成 27 年 1 月頃を予定

(7) 生物多様性緑化研究部会                      シンポジウム 2 件の後援を予定

「自然生態園から多摩丘陵へ」(明治大学 10 月 4 日開催予定)  
「千代田区の小規模緑地の生物多様性からみたあり方」(明治大学 12 月 14 日開催予定)

### 3. シンポジウム

#### (1) 第 45 回大会 公開シンポジウム

斜面緑化研究部会 積雪寒冷地緑化研究部会 合同企画

開催年月日：平成 26 年 8 月 30 日（土）15：00～17：00

開催地：帯広畜産大学 講義棟 大講義室（北海道帯広市）

テーマ：「自然回復法面緑化の寒冷地域における課題」

演題：4

### 4. 現地見学会

#### (1) 第 45 回大会 現地見学会

開催年月日：平成 26 年 9 月 1 日（月）9：30～16：00

見学地：日勝峠・十勝千年の森・帯広の森 ほか

募集人員：50 名(先着・事前申し込み)

### 5. 学会誌の発行：4 回発行予定（第 40 巻 1 号～4 号）

第 40 巻 1 号（既刊）：平成 26 年 8 月 20 日発行 298 頁（第 45 回大会特集号）

第 40 巻 2 号：平成 26 年 11 月末発行予定

第 40 巻 3 号：平成 27 年 2 月末発行予定

第 40 巻 4 号：平成 27 年 5 月末発行予定

※第 40 巻 2 号と 3 号に特集「外来種と植生管理」を掲載予定

### 6. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering の発行：2 回発行予定（Vol. 11 No. 1, No. 2）

### 7. 学会賞の授与

平成 26 年度日本緑化工学会賞の授与

### 8. CPD

(1) CPD 行事の認定と CPD ポイントの付与，CPD 参加証明書の発行

(2) 会員の拡大・新会員への CPD カード発行

(3) HP の更新

(4) 必要に応じ理事会，検討部会，認定委員会を開催するが，通常の打合せなどは E-mail にて行うものとする

### 9. 学会広報事業

(1) HP 運営ワーキンググループによるホームページの運営

(2) 公式ブログの運営と記事の企画・収集 <http://blog.canpan.info/jsrt/>

### 10. その他

(1) 平成 26 年 8 月 19 日～22 日につくばにて開催される地すべり学会にて「緑化工における外来種問題」についての特別展示を行う

第四号議案

平成26(2014年度) 収支予算書 <案>					
(平成26年8月1日～平成27年7月31日)					
	費目	H26年度 予算額(A)	H25年度 予算額(B)	差額 (A-B)	摘要
収入の部	正会員費	5,000,000	5,160,000	160,000	会員数 625名 (@8,000)
	賛助会員費	1,925,000	2,310,000	385,000	会員数 55団体 (@35,000)
	購読会員費	312,000	328,000	16,000	会員数 39団体 (@8,000)
	学生会員費	380,000	432,000	52,000	会員数 95名 (@4,000)
	入会登録料	35,000	30,800	-4,200	50名 (@700)
	投稿料	800,000	400,000	-400,000	
	広告料	1,400,000	1,000,000	-400,000	Vol.40-1～Vol.40-4
	雑収入	1,300,000	1,000,000	-300,000	別刷・BN販売収入、著作権使用料、J-Stage有料閲覧費、利息等
	小計	11,152,000	10,660,800	-491,200	
	前年度繰越金	4,740,666	6,495,743	-1,755,077	
合計	15,892,666	17,156,543	1,263,877		
支出の部	会議費	50,000	50,000	0	理事会・評議会会議室借上費 他
	旅費交通費	550,000	600,000	50,000	理事会交通費
	事務人件費	350,000	400,000	50,000	本部経費、総務部会事務費、HP・ML管理費、サーバレンタル料
	通信費	800,000	800,000	0	会誌・会費請求書発送費、電話・FAX料
	事務用品費	150,000	100,000	-50,000	総務部会事務用品費、コピーリース料
	学会誌刊行費	6,500,000	5,900,000	-600,000	学会誌編集・製作委託費、J-Stage登録費用、英文誌出版分担金
	大会補助費	500,000	500,000	0	大会開催補助費
	シンポジウム・見学会補助費	200,000	200,000	0	
	研究部会補助費	300,000	300,000	0	
	委員会等経費	300,000	300,000	0	編集委員会、大会誌編集委員会
	事務委託費	1,800,000	1,800,000	0	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務、英文誌刊行事務委託費等)
	CPD等経費	300,000	550,000	250,000	管理経費
	諸会費	150,000	150,000	0	JABEE、JAFEE
	震災特別対策費	200,000	300,000	100,000	震災調査費用
	雑費	100,000	30,000	-70,000	振込手数料 他
	小計	12,250,000	11,980,000	-270,000	
予備費	3,642,666	5,176,543	1,533,877	慶弔費 他	
合計	15,892,666	17,156,543	993,877		

平成26(2014)年度 日本緑化工学会英文誌収支予算<案>				
平成26年8月1日～平成27年7月31日				
	費目	平成27年度予算額	平成26年度予算額	摘要
収入	正会員費	588,000	580,650	購読者 80名
	学生会員費	25,200	37,800	購読者 6名
	出版分担金	150,000	150,000	日本緑化工学会より
	合計	763,200	768,450	
支出	諸会費	610,000	640,750	LEE購読料(10巻2号、11巻1号)
		150,000	150,000	ICLEE運営事務負担金
	合計	760,000	790,750	
平成26年8月22日				
日本緑化工学会経理担当理事 田中賢治				

第五号議案 名誉会員の推挙（正会員 3名）

（日本緑化工学会会則 第5条 会員の種別 に関する規程）

名誉会員 緑化に関し、または本会に特に功績のあった者で、総会の議決をもって推挙された者

氏名： 太田 猛彦（おおた たけひこ）

現住所： 埼玉県さいたま市中央区下落合4-3-18

推薦理由：

太田猛彦氏は、本学会第8・9期（2003年10月～2007年9月）の副会長、第10期（2007年10月～2009年9月）の会長を務め、その間およびそれ以前の日本学術会議会員・林政審議会委員の時代から治山・砂防・緑化工の視点から日本の森林の歴史を掘り起こし直し、行政のみならず広く国民に知らしめ、将来の森林管理のあり方を問い直しました。それは、木材生産のみに偏っていた戦後のわが国の森林政策・行政から、“森林が持つ多面的機能”の発揮を目的とした21世紀の森林政策・行政に転換させること、すなわち「林業基本法」（1964年）から「森林・林業基本法」（2003年）への変革などを促しました。

また、本学会と日本学術会議、JAFEE（森林・自然環境技術者教育会）など学会外組織との橋渡し役として活躍され、会長在任期間中の2008年9月には、日本緑化工学会、日本景観生態学会、応用生態工学会の初の3学会合同大会「ELR2008福岡」を福岡大学にて開催し、発表件数252件、参加者552名と成功裡に終わらせました。

会長を退かれた現在も、「森林」、「緑化」、「緑化工学」、「日本緑化工学会」の存在価値・意義を広く国内外に発信しており、東日本大震災で大被害を受けた海岸林の再生にも意欲的に発言されています。これらの業績により、昨年9月の定時総会では日本緑化工学会賞功績賞が授与されました。

以上のとおり、太田猛彦氏は、わが国の森林のあり方に新しい道筋をつけ、本学会の地位を著しく高めた功績は大なるものと判断し、本年8月の定時総会にて名誉会員として推挙されるのがふさわしいと考え、ここに提案いたします。

日本緑化工学会理事 福永健司（東京農業大学）

中村華子（緑化工ラボ）

氏名： 近藤三雄（こんどう みつお）

現住所： 神奈川県横浜市都筑区中川六丁目一番 A-404 号

推薦理由：

近藤三雄氏は、東京農業大学在職時の1975年、日本緑化工学会の前身である「日本緑化工研究会」のメンバーとして、学会活動および運営に携わりご活躍されました。その後、1980年から研究論文発表を続けて行い、機関誌の発行、研究発表会、現地検討会など、活動はますます広がりました。また、理事として1985年にご就任され、さらに1989年には現在の「日本緑化工学会」と再び改称した際には「都市緑化技術研究部会」部会長として都市の緑化技術の向上に多大な尽力を添えられました。その後も約40年間にわたり会の執行役である評議員、理事として、本学会の運営、発展に貢献されました。

研究の面では、生育不良地や都市の緑化技術、中でも草本を用いたワイルドフラワーによる地被植物の導入や壁面緑化技術、さらには多肉植物を用いての薄層緑化に関する研究の成果は、現在の都市緑化技術の大きな柱の一つになっています。また、技術指針の作成など実際の現場で最新技術が活用されるよう、技術の普及や技術者の指導にも力を注がれてきました。

現在、氏は学会の正会員としていまだ緑化工技術の研究、普及活動などを続けられていますが、これまでの学会への功績から「名誉会員」として推挙するのがふさわしいと考え、ここに提案いたします。

日本緑化工学会理事 水庭千鶴子（東京農業大学）  
福永健司（東京農業大学）

氏名： 千葉喬三（ちば きょうぞう）

現住所： 岡山市中区目黒町

推挙理由：

千葉喬三先生は、日本緑化工学会の前身である日本緑化工研究会時代から学会設立に尽力され、設立と同時に理事に就任されました。その後、平成8～11年には副会長、平成11～13年には会長を務められるなど長い間にわたり日本緑化工学会の発展に尽力されてきました。それらの功績によって、平成25年には日本緑化工学会賞（功績賞）を受賞されています。

この間、ご専門の森林土壌学のみならず幅広いご見識によって、法面緑化、環境林造成、および環境林管理の技術開発に取り組み、多数の著書と論文を通じて科学的に緑化工技術の向上発展を図ってこられました。これに加えて、日本学術会議第6部森林工学研究連絡委員のほか、環境庁瀬戸内海環境審議会、建設省中国地方整備局事業評価監視委員会、岡山県環境審議会、岡山県緑化推進協会運営委員会、岡山市緑化審議会委員等など、多数の審議会会長、委員長としてわが国の環境緑化事業の推進にも多大なる貢献をされ、同時に日本緑化工学会とこれらの組織とのパイプ役としても貢献されました。

千葉先生は岡山大学学長を退任されたのち、現在岡山就実大学理事長を務めておられ、高等教育の管理運営に注力されていますが、これまでのご功績と緑化工に関するご見識を踏まえると「名誉会員」として、引き続き本学会をご指導いただくのがふさわしいと考えました。ご承認いただきますよう、ここにお願い申し上げます。

坂本圭児（岡山大学）  
嶋 一徹（岡山大学）